

街道を歩く

禅源寺 (臨済宗)

寛永11年(1634)の家光が上洛の時宿となる。朝鮮通信使、琉球王使とも関係深かった。明治2年の「稲葉騒動」の農民一揆はこの寺の鐘の合図で起こる。



赤染衛門歌碑公園

尾張守大江匡衡が尾張の国司として長保3年(1001)と寛弘6年(1009)の2回赴任。赤染衛門は夫、匡衡に随行して来る。和泉式部と並び称される平安の歌人。匡衡は大江川を造るなど国司として善政名高い。近くには匡衡が再興した尾張学校院跡がある。

「やすらはて 寝なましものを 小夜ふけて
かたぶくまでの 月を見しかな」
百人一首

本成寺 真宗大谷派

家康の家臣が関ヶ原合戦で負傷、治療に専念したが仏門に入ること決意。本願寺教如に得度。慶俊の法号を得て寺を建立。古屋本願寺ができるまで本願寺門徒が江戸往復の途次寺に泊まったという。境内には御成御殿も建ち清洲以西100ヶ寺の住職も集まる九之講も行われたという。

御園神社

清洲3社の1つ。垂仁16年勧請とされるが不詳。清洲に御厨が置かれたときに勧請と思われる。信長小牧城築城のとき城鎮護神をここから勧請したともいわれる。信長朱印、秀吉、正則寄進。秀吉の大政所が1590年社殿造営、1601年忠吉が修理。江戸時代社領20石与えられる。倭媛命が巡幸の「中嶋宮」跡との説もある

上島神社

清洲3社の1つ。垂神13年鎮座という。神宮の御厨のあった清洲公園辺りに勧請されその後ここに移る。御園神社が内宮なら外宮にあたるという。慶長3年(1598)秀吉の病氣平癒祈願される。忠吉、義直から禁制、寄進状が出される。



清涼寺

もとは土田(清洲)にあったが寛永年間(1624-44)に現在地に移り清涼寺とした。本尊子安観音。1721年来時を告げてきた時鐘が山門上の鐘撞堂に今もある。寺前は高札場、かぎ型に曲がり札の辻と呼ばれた。

本陣



林総兵衛家。(現在の林家ではない)美濃路最大の陣(建坪321)。もと清洲宿は一場桑名町に置かれたが1668年の火災でここに移る。将軍上洛、大名参勤交代、朝鮮通信使、琉球使節お茶室の参府に利用された。明治11年には明治天皇も小休した明治24年濃尾大地震で倒壊。正門の縮小再建。

美濃街道: 03 清洲(船舳) — (稲沢)六角堂 — 稲葉 — 石橋



尾張の惣社、平安時代の「延喜式」神名帳にその名がみられる。鎌倉時代初期に正一が贈られる。祭神 大国霊神と宗形神(海上神) 拝殿(国重文)切妻入母屋造り、江戸初期?。楼門(国重文)三門一戸、入母屋松皮葺室町後半に造営されたらしい。裸祭りの奇祭で知られる。



名東正家邸跡碑

織田信忠、丹羽長秀、秀吉に仕える。豊臣五奉行の1人、財務担当。文禄4年(1595)水口城主、5万石。関ヶ原合戦では西軍、敗戦で自決。

この辺り
七曲がり縄手

四ッ谷追分道標

岐阜街道との分岐点
立場、茶屋があった
名物うどん

浅野長勝邸跡

(長光寺西南民家の塙の中)
土岐一族、又右衛門長勝
養子長政と共に信長、秀吉
仕える。秀吉の正室ねね
(北政所)の義父。

長光寺 (興化山)

応保元年(1161)平頼盛が創建。延元3年(1338)足利尊氏が復興、長光寺寛林院とし、明応8年(1499)現寺号とした。地藏堂(六角堂)には鉄地藏菩薩(国重文)がある。寺奥の「臥松水」は信長お気に入り岐阜に取り寄せたという。境内には丹羽盤恒子の墓がある。



盤恒子出生地碑

7歳で国学者鈴木あきらに学び尾張藩の史書編纂に名筆を揮う。特に楷書の細筆に優れる、11代藩主斉温も教えを受ける。



盤恒子出生地碑

9代藩主宗睦は代官、郡奉行を名古屋城下から各地へ赴任させ地方支配組織とした。各地に代官所(陣屋)がおかれた。

清洲代官所跡

(田んぼの畦道)
きおうじ
本尊虚空蔵菩薩(国重文)
南北時代の寄木

北市場町

総見院

本成寺

一場

光遠寺

本尊日蓮上人木像
清洲唯一の日蓮宗寺院
延宝年間(1673-81)に創建



上島神社

本陣跡

林家

清涼寺

御鋤神社

五条川